

【所属名：環境生活課】

【会議名：第1回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 平成31年3月8日

日	平成31年2月22日	時間	9:30 ~ 11:40	場所	市役所201会議室
件名	議題 1 第2次環境基本計画策定 市民・事業者アンケート 2 環境基本計画 PDCA 進行管理について (公開)				
出席者	【出席者】 10人 山縣会長 池亀副会長 伊藤委員 小野委員 齋藤委員 菅原委員 杉本委員 葉菫委員 安田委員 吉田委員 【欠席者】 3人 石橋委員 杉野委員 田村委員 【事務局】 山本市民部長 五十嵐課長 高野課長補佐 川原主査 横澤主任主事				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	1人

会議要旨

1 開会	進行 五十嵐課長
2 新委員紹介	人事異動に伴い松浦委員から伊藤委員に、高野委員から葉菫委員に変更。
3 議事	《主な質疑・意見》 第2次糸魚川市環境基本計画策定について 資料 No.1
【会長】	市民1,000人 企業84社の内訳は
【事務局】	市民については住民基本台帳から無作為で抽出、企業については糸魚川雇用促進協議会が発行している、糸魚川企業ガイドブックに掲載されている企業すべてに発送する予定としている。
【委員】	市民の抽出について、年代ごとの配分と若い世代を考えてほしいことと、若い世代の意見も取り入れてもらいたい。
【事務局】	世代配分も考慮していきたい。10代は15歳以上を対象に考えている。

市民アンケートについて **資料No.2**

【事務局】 前回との比較が必要なため、基本的には前回のアンケートと同じ。他市も同じ流れになっている。

前回との変更点は、居住地域を地区公民館単位にしたこと、1つの設問で2つの内容を聞いていたところ、同じような内容の設問が複数あったところを変更した。

【会長】 居住地域は配慮して抽出するのか。

【事務局】 片寄りのないよう配慮することを考えている。

【委員】 前回のアンケートの回収率は。

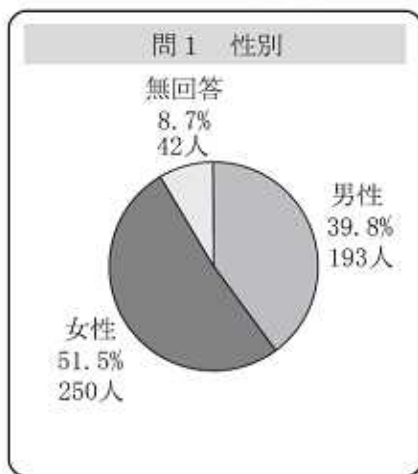
【事務局】 1,000人中485人。48.5%という結果であった。

【委員】 項目が多いことや分からない部分があり、低いのではないかと。回収率を上げるためにはどういう方法がいいのか。

【委員】 前回のアンケートの年代別の比率が分かれば教えてほしい。

【事務局】 環境基本計画資料編に示してあるとおり、50代60代70代以上からおおく答えてもらっている。

<回答者のフェイスデータ> 回答者485人



【会長】 前回の抽出では年代は均等になっていたのか。

【事務局】 把握はしていない。

【委員】 環境は小さいうちから考えてもらうことが大切。若い世代に関心を持ってもらうやり方はないか。アンケートだけではなく何か違う方法での周知が必要では。

【事務局】 若い世代の意見を施策に反映させることも構築していきたいが、それが難しい状況であれば、何かの機会に情報発信して関心を持ってもらう取り組みを行ってきたい。

【委員】 先回の抽出で年代別の人数を教えてください。

【事務局】 手元にデータを持ち合わせていないので、次回の会議でお示しする。

【会長】 今回は年代のバランスはとるのか。

【事務局】 考え方は2通りあり、無作為の抽出であれば糸魚川市の年代別の人口比率が反映される形になり、今回の議論にあるように若い人の意見を取り入れるということであれば、10代100人、20代100人と抽出する方法もある。
どちらの方がふさわしいのかの意見をいただきたい。

【委員】 事務局としては前回のアンケートを踏まえた結果を求めているのか。今回意見の取り入れて、前回とは違った形で行うことも考えているのか。

【事務局】 基本的には質問項目を変えないことで、10年間の経年変化や市民の意識の変化を知ることが今回アンケートを行う目的である。今回策定する基本計画に若い人の意見も取り入れるというご意見であれば、年代別に均等な人数を抽出するという方法も考えられる。
それをふまえてご意見をいただきたい。

【会長】 前回との比較を行うということを考えると、抽出方法を変えると結果や解釈が変わるのでは。

【事務局】 結果も若干変わり、解釈も多少変わってくると思う。

【会長】 あまり抽出方法を変えるのはよろしくないのでは。

【委員】 年代別の集計結果は出すことはできるはずなので、年代別の意識が分かれば、これからの若い人たちにどのような施策ができるか準備できるのでは。

【委員】 回答対象年代の幅が広いので、年代によっては質問内容が難しいところや、専門

用語などが分かりにくいところがある。 印などつけて説明をつけたらどうか。

【事務局】 可能な限りわかりやすい設問内容になるよう心がけてはいるが、できていない部分もある。低年齢から高齢までわかりやすい文章で少しでも反映させたい。

説明が難しい部分は説明書きをつけていきたいが、注意書きが多くなると文章量が多くなり回答しづらくなるという場合もあるので、言葉をやさしくする方向で対応したい。

【委員】 問4の に、ごみをあさるカラスやのら猫の問題、畑以外も荒らすイノシシ被害など、生活環境への被害なども足してもらえないか。

【事務局】 設問 は自然環境や生態系の項目であり、生活環境も反映させるようにしたい。

【委員】 設問の内容を分かりやすく噛み砕くことも必要と感じる。問4の と は漠然としていて答えにくいのではないか。具体的な選択肢を選べられるようにした方がいいのでは。

【事務局】 選択肢で選ぶ形では までであり、 はそれ以外という形で答えていただく構成で設定された。

【委員】 広い分野で理念的な面が問われているところが多い。実際に何をどうしたら良くなっていくのかというところを問えば、よりいいアンケートにつながり次回の計画を策定する参考になるのではないか。

【事務局】 環境基本計画は範囲が広く例示を示すのが難しいため、このような内容になっている。

具体的に必要なものとして自由記載とするのは回答者に負担がかかる部分でもあるので、前回いただいたご意見で回答の多かった内容に をつけてもらうことなど検討したい。

【委員】 市民アンケートの結果が計画にどのように反映されているかわかりにくい。具体的に計画に反映されているのが見えればよくなるのでは。

【事務局】 今回のアンケートの主旨である前回からの経過を知るところからスタートし、前回より傾向の変わったところや関心が高まったところなどを、次の計画に反映していく形を取らせてもらう。その内容を次回の審議会で提案しますので、審議いただ

きたい。また、完成した際にはそのようなことを含めて、市民への説明に努めていきたい。

【委員】 このアンケートは次回に向けてのものと考えているが、これまで10年の集約はどのようなのか。アンケート内容は、集約の結果を踏まえた基準で考えるべきではないか。その計画が進んでいたのであれば、アンケートの内容からはずしてよいのでは。これまでの集約と次回に向けたアンケートが、この1年間で進行するのかどうか聞きたい。

【事務局】 環境基本計画の進行状況は、毎年審議会で審議いただいているPDCAサイクルで、今年度の結果と来年度の計画を示している。その集大成が来年度の計画の中でPDCAとして出てくると思われるので、そのPDCAを見ていただいてそれと今回のアンケートをあわせた結果を計画の中に反映させていただきたい。
10年間の集約と次回のアンケートは同時進行となる。

【委員】 先回は10歳代は17名回収。今回出しても同じくらい少ない回収になると予想している。
このアンケートを市内にある学校に出したらどうだ。アンケートの際、環境教育も含めて内容について説明を行い、学校から集計してもらったらどうだろう。

【事務局】 同じアンケートということであれば、中学生レベルでないと言葉も含めて難しい内容であると思う。学校との調整も含めて中学校の1学年くらい行うことも必要かとも考える。学校現場と調整しながら、市民アンケートとは別にとりいう形になるかと思うので検討していきたい。

【委員】 10代が先回と同じような回答率では意味がない。ある程度の授業に取り組んだり10代の声をもらうということになると、そのくらいのことを行うことも必要であると思う。

【事務局】 教育委員会の中と調整して、全校でなくても出前授業を行ったクラスにとりか、いろいろな方法があると思われるので、調整していきたい。

【会長】 これまでの集約というのはどこかの段階で行うのか。

【事務局】 集約についてはPDCAサイクルの関連指標で、当初の目標数値、中間見直しの目標数値、そして今年度の暫定値として示している。この数値が集約と考えている。今年度までの9年間の数値を、次回の会議でお示しする。

【会長】 送付の際には案内文はつくのか。
アンケートに答える意義の重要性や回答しようという意識にするような、回収率が上がるような内容で工夫して案内してほしい。
アンケートの集計結果を丁寧に分析し活かしてもらいたい。

【事務局】 そのように行っていく。

【委員】 アンケートの集計結果は公開されるのか。
パブリックコメントは行うのか。資料は市民が分かりやすいような内容で掲載してほしい。

【事務局】 アンケートの集計結果は内容が膨大なため、広報は概要程度ができるかどうか。
ホームページには全体を公開したい。
パブリックコメントの資料は、計画の内容が多岐にわたり難しい部分があるが、工夫をしていきたい

事業所アンケートについて [資料No.3](#)

【事務局】 事業所については、設問に軽微な文言の追加を行ったのみである。
先回の結果が環境基本計画に掲載されていないのは、先回は廃棄物処理基本計画策定のためのアンケートと同時に行ったため、反映しにくかったもの。今回は環境基本計画の策定のみで行う。

【会長】 次回の環境基本計画には、事業所アンケートも掲載するのか。

【事務局】 今回はまとめて何かしらの形でお知らせするか、報告書として計画に載せていきたいと思っている。ただし、仮に結果から回答した業種が特定されるものが出てきた際には、伏せる場合もある。今のところは掲載する予定でいる。

環境基本計画P D C A進行管理表について [資料No.4](#) [資料No.5](#)

【委員】 糸魚川の貴重な生きものたちチラシの啓発
パンフレットでは貴重な生きものの存在のみ紹介されており、珍しい生き物がいるんだという興味本位で終わっている。
自然保護に結び付けるために、なぜ絶滅の危機にあるのかとかそういうところをきちんと理解してもらわないと、環境保全という市民の意識と行動にはつながらないように思う。
具体的にどのような啓発を行ったのか。

【事務局】 2,000枚作成し、市役所、能生事務所、青海事務所の窓口、ジオパーク推進係に配布した。ジオパーク推進係からはジオパークガイドに配布してもらい、当市の自然の保護の啓発を行っている。

【委員】 チラシに掲載されている動植物について、天然記念物がいる生息域には県外からの人がたくさんおり、悪びれずに採取している。貴重な生物をどのように保護していくか、行政が知恵を絞るべきではないか。生物の存在を教えながら保護の方法を示せば有効に活用できるのではないか。地元の人たちへの啓発などが重要かと考えるので、検討してもらいたい。

【事務局】 このチラシは、以前作成した「糸魚川市の貴重な生きものたち」という冊子を基に作成した。冊子を作成するにあたって、生息する生物については膨大な量があったが、一般の人でも知っている範囲で選択した。生息域については、場所を特定できないようジオサイトという広い範囲にした。

保護活動との結びつけは難しいところではあるが、そのような施策ができるよう検討したい。

【委員】 ジオパークについて、訪れた人たちが満足に体験できるよう、ジオサイトの現状を把握してほしい。トイレが故障し使用できなかった話も聞いている。

世界ジオパークの一つとして守っていくために、現状を把握し対応できる施策を取ってほしい。

【事務局】 整備が行き届かないところもあるかと思う。基本計画のPDCA進行管理表は関連する課と連携を取り作成している。この審議会でご意見があったことをお伝えする。ご意見をいただくことで、より良い方向へ向かう施策を行っていきたい。

【委員】 小さい子たちが、この先の将来一番苦労するのが環境問題ではないか。

環境行動の啓発として、夏休みに小学生親子でごみ処理施設の見学を行うなどで、意識付けになるのではないか。

夕方の広報で、こども消防隊のように緑の少年団の活動を、活動している児童たちの声で伝えるのも環境行動のPRになるのではないか。

【事務局】 新しい清掃センターは32年4月から、最終処分場は33年4月から稼働する。

清掃センターでは、子供さんも含めてごみ問題について学べるセミナー室や見学ルートを考えているので、そのようなものを活用していきたい。また、稼働最初の年には、毎年11月に行っている環境フェアを清掃センターで行うことを検討している。そのような機会を利用して、多くの方にきていただいてごみ問題などにも関心を持ってもらえるようにしたいと考えている。

子供たちの活躍の場の紹介については、このご意見を関連する課にお伝えし、いろいろな場面で紹介できるようにしていきたい。

【委員】 塩の道関連の資料について、出発点としてPRしているのに、それにふさわしい当時使用されていた道具などの資料がなくなっている。

糸魚川で塩が作られていたということを、子供たちに伝えるものもなくなっている。しっかり対応しないと歴史的文化的資料が失われていくことに危機感を感じる。現状を把握して対応してもらいたい。

【事務局】 守っていくものを引き継いでいくことは大切なことなので、今回のご意見を担当課にお伝えする。

【委員】 田海ヶ池の保全の維持として、今年度はどのようなことを行ったか。

【事務局】 田海ヶ池についてはトンボの種類が多く、ほかの動植物も多い貴重な池と認識している。32年度に大きな事業を検討しており、現在調整を行っている。池の水を減らして外来種を捕獲するという事業があるが、田海ヶ池の構造上、流入の川がなかったり排水溝の位置が高い位置にあったり難しい点があるので、少し水を抜いて外来種を駆除することができないかということ、今年度に有識者の方々にご相談など、お話を聞いており、来年度のどこかで確実な情報をお知らせすることができるかと思っている。

【委員】 平日の有害鳥獣出没に対する人的被害防止に迅速な対応をとることを目的として、猟銃を所持している市職員が職務として出勤することへの体制づくりはどうだ。

【事務局】 猟銃免許を取得しているものは3名、そのうち所持許可を得ているものは1名かと思う。

市の施策では 猟友会へ加入することを条件に、免許の新規取得から所持許可までにかかる費用に対して助成を行っており、この制度を利用し猟友会に入会する会員が増えてきている。合併当初よりも会員数が若干だが増えてきており、若い世代の所持者も増え、そのような状況で対応している。

他の自治体では、職員の実施隊を設け対応しているところもある。今回の件はご意見としていただく。

【委員】 森林整備計画について、なかなか進まない現状がある。計画から実施まで期間がかかる。所有者について、地区の所有している森林はすぐ整備できるが、個人で所

有している森林は整備が進まない。整備には費用が掛かることと、所有者も場所が特定できていない。所有者は自分の山の場所がわからない状況で、山林に関心がないのが現状である。整備するにも所有者の方から了解を得なければならず、勝手に間伐することができない。行政の協力は得られないのか。

【糸魚川地域振興局農林振興部長】

現状はそのとおりである。森林整備は大事なのは承知しているが、所有者不明境界不明で整備できない森林が増えてきている。今年から市では森林環境税という新しい財源を導入し、森林整備を進めるができるようになった。県と市と共同して進めていきたい。

【事務局】 市としても関係課、振興局と協働して取り組んでいきたい。

【委員】 イノシシ、シカの被害総額は。

【事務局】 イノシシに限らず農作物被害額について、平成 29 年度の共済のデータでは、水稻は約 490 万、その他の作物はアンケートになるが約 110 万、合計約 600 円となっている。市の施策では、電気柵などによる農作物被害の減少をメインとしているが、イノシシの出没については市街地でも見られており、昨年 807 頭捕獲した。今年度については降雪の影響なのかもしれないが、出没が少ない状況であり、捕獲実績も減少傾向にある。昨年度の捕獲が一定の効果があったかもしれないと推測している。暖冬の影響もあるので、今後も継続して見ていきたい。

【委員】 今年は小雪なので、春先の出没が増えるのでは。

【事務局】 猟友会での話では、雪が少なく目標物を見つけにくく、動きも読めなくて捕獲が難しい現状にあると聞いた。雪のある山間地での捕獲が多くなる傾向にある。これまでも、暖冬や大雪という年があり変化を見たいところではあるが、近年増えすぎていて、傾向を知る統計資料がないため状態を見ながら猟友会と協働で進めていきたい。情報があったら教えていただきたい。

【委員】 野生動物の人的被害は聞いているか。

【事務局】 クマによる被害は平成 28 年 29 年に青海地域で 1 件ずつ。平成 27 年に 2 件で小滝と高谷根で発生した。イノシシによる人身被害は、平成 21 年に根知和泉地区で 1 件発生してからは、人的被害が発生したという報告は受けていない。

【委員】 サル被害がまた最近よく聞くようになった。イノシシだけではなくサルによる被

害についても対策が必要なのでは。

【事務局】 サルの出没情報は増えているが、場所がある程度限定されている。おおよその群れの位置を把握しながらの対策となる。はぐれたサルが市街地に出没することもあるので、その際は人身被害の危険も出てくる。有識者の助言をいただきながら進めていきたい。

【委員】 資料 No.4 の詳細版で、指標が設定されていない項目もあるので。資料 No.5 の概要版に、関連指標の数値がすべて掲載されていない。
関連指標の進捗状況はどう見ればよいのか。

【事務局】 概要版で示してある標題が、詳細版の計画であり施策となっている。指標にあらわされるものを概要版に掲載している。環境には指標に表すことのできない項目も多く、すべての施策に数値目標を設けることができないことをご理解いただきたい。関連指標の掲載順は基本計画どおりではないが、毎年数値化できるものに関しては掲載している。

進捗状況については、次回の会議でこれまでの一覧表を配布する。

概要版への掲載については今後見直していく。

会議全体をとおした質疑など

【糸魚川地域振興局農林振興部長】

次期計画に若い人の意見を取り入れるにあたって、県と市が共同で行っている中高校生の総合学習などの機会でも、関連付けて連携して発信していきたい。

貴重な生きものの関連についても、県、国、民間団体など取り組んでいるので、連携して行っていきたい。

【事務局】 市単独で行うには難しい部分もあるので、関連付けて振興局さんと連携して行わせていただきたい。

【委員】 会議録は速やかに公表してほしい。

【委員】 ごみの不法投棄の関係、市の傾向は。

【事務局】 不法投棄パトロールでは、重点箇所を設けて行っているため発見数は多いが、回収量は減っている感覚を持っている。

【委員】 親不知県立自然公園のごみのポイ捨てが多い。公園内はすべて回収できるが、国道8号線の道路脇は、液体の入っているもの以外のものは回収している。1ヶ月でか

なりの量になる。啓発は難しい問題であるが、どのようにすればよいか。

【事務局】 おそらく通行している市外の人への投棄が多いのではと思う。国道に関しては、国交省に情報提供を行い少しでも改善の方法がないか考えていきたい。

【委員】 海岸線が大きく変わり砂浜がなくなってきた。行政の管理体制や対応は。

【事務局】 市では、大和川漁港海岸に砂を戻す事業を行っている。自然の大きな力の中で目に見えて浜が戻るような状態ではない。河川の砂防事業や海流の変化が影響している話も聞いている。難しい部分ではあるが、海岸も大切な自然であり保全していきたい。

ハード事業は難しい部分と思っているが、海に親しむなどソフト事業などは行っているため、この様なものを含めて海の環境問題を考える場にしていきたい。

4 その他

来年度は第2次基本計画策定スケジュールのとおり、3回の審議会を予定している。
7月、10月、3月を予定している。

5 閉会 池亀副会長